

菖蒲田浜 (しょうぶたはま)

菖蒲田浜周辺の堀や沼の水辺には美しい菖蒲が咲き乱れて、それが海の眺めを一層引きだしたことから「あやめヶ浦」と呼ばれていました。それがいつしか「菖蒲田」という地名に改められたと伝えられています。



G 菖蒲田海水浴場 (しょうぶたかいすいよくじょう)

明治21年に東北で初めて、全国でも3番目に開設され、毎年5万人の海水浴客が訪れる県内有数のマリンスポーツ地です。サーフィンやウインドサーフィンなどのメッカとしても有名で、一年中マリンスポーツを楽しむ若者たちで賑わいをみせています。

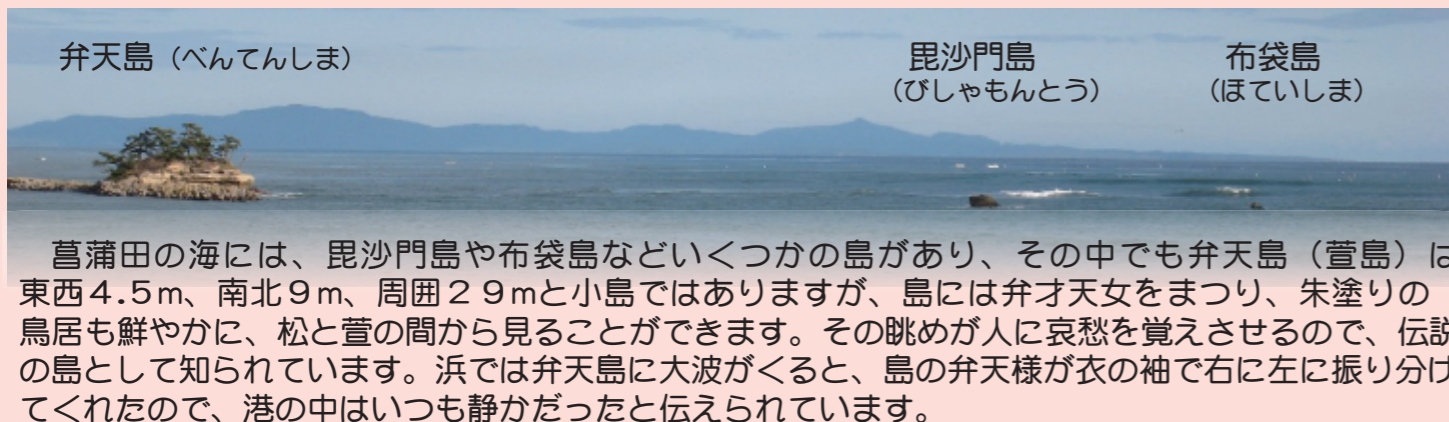


日本最初 (明治14年) 愛知県千鳥ヶ浜
二番目 (明治18年) 神奈川県大磯の照ヶ崎海岸

詳細地図③



弁天島 (べんてんしま) (別名：萱島 (かやじま))



弁天島 (べんてんしま)

毘沙門島 (びしゃもんとう)

布袋島 (ぼていしま)

菖蒲田の海には、毘沙門島や布袋島などいくつかの島があり、その中でも弁天島(萱島)は東西4.5m、南北9m、周囲29mと小島ではありますが、島には弁才天女をまつり、朱塗りの鳥居も鮮やかに、松と萱の間から見る事ができます。その眺めが人に哀愁を覚えさせるので、伝説の島として知られています。浜では弁天島に大波がくると、島の弁天様が衣の袖で右に左に振り分けてくれたので、港の中はいつも静かだったと伝えられています。

詳細地図④



大東館 (だいたうかん)

明治21年(1888)、菖蒲田海水浴場が開設されたことに併せて、大東館が建てられました。

当時の海水浴は、「潮湯治」(しおとうじ)とも呼ばれ、療養を目的に全国へ広まりました。18世紀の中頃、イギリスの医師が海岸に患者を集め、海水に浸らせたのがその始まりと言われています。大東館は、いわば湯治をするための療養(保養)施設で、財界人や軍人などの有名人の来館が後を断たなかったといわれています。

上棟式には若き後藤新平(後の満鉄初代総裁・東京市長)も出席したといわれています。

その後も、文人では島崎藤村や宮沢賢治なども訪問しています。しかし、場所は岬の先端にあり風や波によって浸食が激しく、建替の話もあったそうですが、結局は撤去されてしまいました。



(写真：撤去前の大東館)

弁天島(萱島)の言い伝え 民話3

昔、この浜に醜い女がいました。年頃になっても、嫁入りの話もない日々を送っていました。寂しさに耐えかねて、思いつめたあげく、萱島に渡ったが近寄る人もいませんでした。醜女(しこめ)はすっかりあきらめて、「沖の萱島一本松よ誰れも枝折ることもない」とうたってこの世を去りました。他の言い伝えでは、あまりに綺麗すぎるために嫁入りの話がなかったとも伝えられています。

E 諏訪神社 (すわじんじゃ)



諏訪神社は、地区の鎮守神として家内や海上の安全・大漁・豊作・無病息災等の祈願をする人たちが多く、信仰を集めていました。祭日には参道の両側にのぼりが立ち並び、みこしがのぼりの中を通り抜けて海岸近くの集落を練り歩きました。

また、祭神である健御名方富命(たけみなかたとみのみこと)は、相撲の起源にまつわる神であり、境内では奉納相撲が行われていたそうです。

F 阿川沼 (あがわめま)



阿川沼周辺で生息している鳥・トンボの例

- | | |
|---------|----------|
| オオハクチョウ | オニヤンマ |
| マガモ | ギヤンマ |
| ユリカモメ | アキアカネ |
| ツグミ | チョウトンボ |
| カルガモ | シオカラトンボ |
| ウミネコ | アシアイトトンボ |
| トビ | コブキトンボ |
| ムクドリ | ウチワヤンマ |
| モズ | ナツアカネ |
| ヒヨドリ | ウスバキトンボ |
| | など |



菖蒲田浜の北方にある、東西275メートル、南北825メートル、周囲1942メートルの本町第一の湖沼です。古くから付近の水田へ用水を供給していましたが、かつては南側で海水が流入していたため、農業用水としては不相当でした。機関排水の設備が施され、海水の出入りが阻止されてからは塩害も減少し、水田も良田へと変わり、フナやコイなども生息しています。

現在では、さらに水質が改善され、20種類以上の鳥が生息し、18種類以上のとんぼや、阿川沼周辺では蛍の生息も確認されています。

沼神の手紙 民話4

昔、菖蒲田浜では、「阿川沼の主は大蛇だ」と伝えられていました。あるとき、村の男がお伊勢参りの帰りに、奈良の猿沢の池のほとりにさしかかたら、美しい女が出て来て、「どこまで帰るのっしょ」と尋ねたので男は、「菖蒲田浜の阿川沼の近さ帰るでがす」と言いました。すると女は「あの阿川沼には私の妹が居るでがす、橋のたもとで手ばたけ三回すつと、妹が出て来っからこの手紙ば渡しとてけさえん」と言って一通の手紙を託しました。男は懐に大事にしまつて、途中何もなくて村に帰りました。

家で帰りを待っていた人たちは、無事な姿を見て喜び合いながら、男を囲んでお伊勢参りの土産話を聞いていました。そのうち男は奈良の猿沢の池のほとりで、美しい女の人から手紙を預かったことを話してしまいました。家の人は不思議に思い、男の寝たあとでこっそり手紙を出して見たら、「この男、少しのんびりしてるので捕って食ってしまえ」と書いてありました。

家の人はびっくりして、「他人に用事を頼んでおぎながらとんでもねえごつた、そつちがその気ならこつちにも考えがある」ということになって、「この男、ねつからの正直者だから、一番良い褒美を与えよ」と手紙の内容を書き改めました。

翌朝、男はそれとも知らず、手紙を持って阿川沼の橋のたもとに行き、教えられたように手ばたけ三回したら、沼の中から美しい女が出て来たので、頼まれた手紙を渡しました。女はこれを見て、「ちょっと待ってけさえん」と言って沼の中に戻って行きました。しばらくしたら沢山の宝物を持って現れ、男に与えたので家の暮らしが良くなり、村一番の大金持ちになったといわれています。

